



アメリカ・カナダ大学連合
日本研究センター

申込先



第22回レクチャーシリーズ

お問い合わせ：events@iucjapan.org

ラーメンから考える日中関係史

日本には「ラーメン」を表す言葉は一つしかありません。
ほかの麺類は多くの種類と呼称があり、日本国内で広く親しまれたものの、ラーメンのように国際市場を席卷するには至りませんでした。
東アジアの食文化は、単なる料理にとどまらず、政治的、そして時に哲学的・経済的・社会的な役割も果たしています。
ラーメンの長い進化は中国発祥の食品として始まり、約1,000年を経て現代の日本食の中でも象徴的な料理のひとつとして定着しました。
この歴史は、日本料理がたどってきた豊かで魅力的な歩みを示すと同時に、「食」と「政治」が日中関係においていかにして力を持つようになったのかを物語っています。
ラーメンは、東アジアにおける二大国家間の関係を象徴する存在ともなったのです。
なぜラーメンがこのような役割を担うようになったのか、そしてそれは何を意味しているのでしょうか。



バラク・クシュナー



ケンブリッジ大学アジア・中東研究学部東アジア史教授。1995年にIUCを卒業。
これまでに多数の論文集と単著を出版。主な著書に、『Men to Devils, Devils to Men: Japanese War Crimes and Chinese Justice』（2015年、アメリカ歴史学会ジョン・K・フエアバンク賞受賞）や、『The Geography of Injustice: East Asia's Battle between Memory and History』（2024年）などがある。
歴史的観点によるラーメン研究にも従事。ソフィー・コウ賞を受賞した『Slurp! A Culinary and Social History of Ramen, Japan's Favorite Noodle Soup』（2012年）を、日本語版『ラーメンの歴史学—ホットな国民食からクールな世界食へ』（2018年）で上梓。ラーメン学を考察するNHK番組「ラーメンを知りたい」に出演。
中国における戦犯裁判を巡る歴史ドキュメンタリーに携わっている。



時間：2025年12月5日（金）15:15～16:45



会場：パシフィコ横浜
横浜国際協力センター6階GALERIO



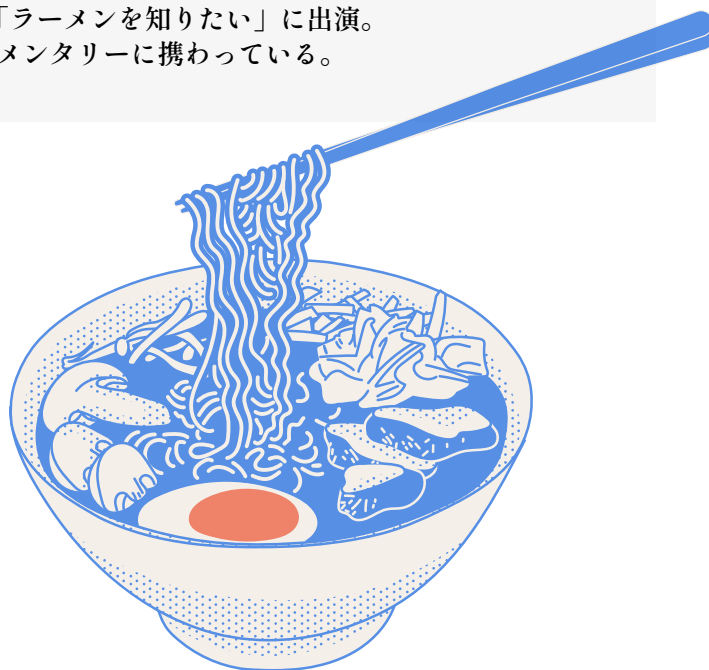
使用言語：日本語（通訳なし）



申込期限：2025年12月1日
（定員100名先着順）



主催：IUC
アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター



本イベントは、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター 日本財団フェローシッププログラムの一環として開催されます。